

下野市産業振興計画策定委員会(第6回)

会議要録

【開催日時】 平成27年3月20日(金) 午後1時30分～午後2時40分

【開催場所】 南河内公民館 会議室

【出欠】 出席委員：8名、欠席委員：6名、事務局：5名

【傍聴者数】 0名

【配布資料】

- 1 下野市産業振興計画(案)
- 2 下野市産業振興計画(案) <概要版>
- 3 パブリックコメントの結果について
- 4 めざす数値目標

【議事】

1 開会

2 あいさつ (委員長)

計画策定後、その内容がどのように遂行されていくか、どういう過程を経て地域に貢献していくかが肝要である。また、今後成果を挙げていけるよう点検・評価をしなければならず、まだまだ目を離すことが出来ない。本日は最終回の委員会であるが、委員の皆様から多くの意見を頂戴して、立派な計画を完成させたい。

3 議事

(1) パブリックコメントの結果について

- 事務局が説明。

(2) 下野市産業振興計画 (案) について

- 事務局が説明。
- 委員長は、ここまでの内容について委員に意見を促した。

(委員長)

私から気付いた点を述べたい。概要版の最終頁の分野別指標において、観光自転車利用者数が平成25年度実績は691件、平成31年度目標値は1,000件とあるが、単位は「人」ではないか。

(事務局)

自転車については一人で一台を使用し、利用件数がそのまま利用人数になると考えられることから、単位は「人」に修正する。

(委員)

空き店舗奨励金等活用件数に関連して、空き店舗の物件情報、貸出方法、貸出

期間などの PR は行っているのか。

(事務局)

既存の制度であり、空き店舗を借りて事業を始めた方を対象に、補助上限 60 万円として賃借料の 1/2 の額を 1 年間、補助している。物件情報の PR については、本人の意思確認等もあることから、特に事務局で行っていないが、今後検討したい。

(委員長)

実際の問い合わせ状況はどうなのか。

(事務局)

今年度は 1 件の認定があった。その他に相談が 2 件ほどあったが、賃借には至らなかった。立地がよくても、古い店舗ではリフォーム料が余計にかかったりと難しいようだ。今後はそういった面での支援も検討していきたい。

(委員)

現行の制度だと補助期間は 1 年とあるが、期間を延ばすことは考えているか。市内に限らず、補助期間が終了した途端に店舗を撤退してしまうという話もよく聞く。

(事務局)

これまでの実績だと、補助終了後 1 年で撤退したという事例はない。ただ、そのような可能性も考えられるので、今後対策を検討していきたい。

(委員長)

私が知る例では、ベトナム人留学生が宇都宮市の商店街で空き店舗を活用して出店していた。2 年目も学生にはやる気があったが補助終了となり、経済的な理由から撤退を余儀なくされていた。

(委員)

プロなら制度を上手く活用できるだろうが、素人は活用しきれないのだろう。

(委員長)

他にご意見のある方はいますか。

(委員)

基本目標 2 の (2) 医療・福祉系産業の誘致・育成の中で、「市内中小企業等と自治医科大学・同附属病院及び市の協力体制づくりを進めます」とあるが、具体的にはどんなことをするのか。

(事務局)

まずは、連絡会・意見交換会といった対話の場を作ることが出だしとなる。そこから、新たな機材の開発などに話が発展することを期待する。

(委員)

緊急の際の、救急車の搬送についてなどではないのか。あくまでも、自治医大

に関連した医療器具等の開発に関する協力体制ということか。

(事務局)

後者である。下野市産業振興計画(案)の P74 に掲載されている。

(委員)

承知した。

(委員長)

市内の病院食は、市内産のものを利用しているといったことはないのか。

(事務局)

市内の米生産農家が病院に卸しているという話があります。

(委員長)

他にご意見のある方はいますか。いなければ、下野市産業振興計画(案)について承認するものとみなすがよろしいか。

(委員)

異議なし。

(委員長)

それでは、この下野市産業振興計画(案)を承認したので、(案)を消していただきたい。

(3) その他

(事務局)

本計画から来年度取り組むことが決定している事業について説明したい。P66 をご覧いただくと「下野市中小企業制度融資による支援拡充」とあり、平成 26 年度までは、制度融資の貸付額枠は 14 億 1 千万円であったが、平成 27 年度は増額し 16 億 5 千万円となる。続いて、P73 に「工場適地の探索・適地指定」とあるが、工場適地の調査を実施し、企業誘致の方向性の検討を行う。このための予算としては 590 万円ほどを計上している。次に、P79 に「コミックキャラクター(瓜田瑠梨)との連携による商品開発」について説明する。水道課がつくる「下野市のおいしい水」のペットボトルのパッケージに瓜田瑠梨という下野市にゆかりのあるコミックキャラクターを掲載し、PR を図る。また、カンピくんを使って、観光キャラバン隊を設置し、週 2～3 回東京圏を中心とした各地のイベントに参加し、市の PR を行う。次に、P81 に「着地型観光事業の推進」とあるが、来年度は下野市へのモニターツアーを 4 回ほど計画している。このための予算としては 220 万円ほどを計上している。

(4) 今後の予定について

(事務局)

承認された本計画について、来週中に最終的な決裁を市長までもらう。その後、印刷製本を行い、皆様にお渡しする。

(委員長)

ほかにご意見はあるか。ないようなので、閉会とする。

4 閉会 (14 : 40)